

インスリンアナログ使用糖尿病患者の血中抗インスリン抗体出現頻度とその臨床的問題点

島尻キンザー前クリニック¹⁾

和歌山県立医科大学医学部 臨床検査医学²⁾

駅前つのだクリニック³⁾、府中病院糖尿病センター⁴⁾

○島尻 佳典¹⁾、植山 実²⁾、森田 修平²⁾

角田 圭子³⁾、角谷 佳城⁴⁾、山田 正一⁴⁾

古田 眞智²⁾、三家登喜夫²⁾

インスリンアナログで治療を受けている 2 型糖尿病患者の血中抗ヒトインスリン抗体 (I 抗体) の出現頻度と抗体保有者の臨床的特徴を検討した。【対象】同一のインスリン製剤を 1 年間以上使用している患者 106 名 (ヒト 40 名、アスパルト 29 名、リスプロ 19 名、グラルギン 18 名) を対象とした。【方法】I 抗体は、125-I 標識ヒトインスリンを用いる PEG 法にて測定した。【結果】抗体陽性者の頻度は、ヒト (0%)、アスパルト (62.1%)、リスプロ (31.6%)、グラルギン (61.1%) であった。また、リスプロまたはアスパルト使用者で、HbA1c、BMI、をマッチさせてインスリン投与量を比較すると、陽性群の投与量は陰性群に比し有意 (34%、 $P=0.006$) に多かった。また、空腹時血中 CPR (プロインスリンと 69% 交差性を有する汎用されている測定系) 値が同程度である抗体陽性者と陰性者の検体をプロインスリンと交差しない新たな系で測定した場合の値は、陽性群は、陰性群に比し有意 ($P=0.033$) な低値であり、抗体と結合した内因性のプロインスリンが CPR の測定系を見かけ上高値にしている可能性が考えられた。【結語】インスリンアナログで治療されている 2 型糖尿病患者の血中には高頻度に I 抗体が出現していた。また、抗体陽性者では陰性者に比し同程度の HbA1c 値を維持するのに約 34% 多くのインスリン量が必要であった。さらに、抗体陽性者では汎用されている測定系にて測定した血中 CPR 値が見かけ上高くなっていることが考えられた。